

*[Handwritten signatures]*  
S&H Form: (2/01)

Attorney Docket No. 122.1466

**IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE**

In re Patent Application of:

Yuji SANO, et al.

Application No.:

Group Art Unit:

Filed: August 21, 2001

Examiner:

For: CAPACITIVE-LOAD DRIVING CIRCUIT CAPABLE OF PROPERLY HANDLING  
TEMPERATURE RISE AND PLASMA DISPLAY APPARATUS USING THE SAME

J1046 U.S. PTO  
09/933166  
08/21/01  


**SUBMISSION OF CERTIFIED COPY OF PRIOR FOREIGN  
APPLICATION IN ACCORDANCE  
WITH THE REQUIREMENTS OF 37 C.F.R. §1.55**

Assistant Commissioner for Patents  
Washington, D.C. 20231

Sir:

In accordance with the provisions of 37 C.F.R. §1.55, the applicant(s) submit(s) herewith  
a certified copy of the following foreign application:

Japanese Patent Application No. 2000-301015 and 2000-393510

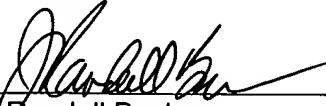
Filed: September 29, 2000 and December 25, 2000, respectively

It is respectfully requested that the applicant(s) be given the benefit of the foreign filing  
date(s) as evidenced by the certified papers attached hereto, in accordance with the  
requirements of 35 U.S.C. §119.

Respectfully submitted,

STAAS & HALSEY LLP

Date: August 21, 2001

By:   
J. Randall Beckers  
Registration No. 30,358

700 11th Street, N.W., Ste. 500  
Washington, D.C. 20001

©2001 Staas & Halsey LLP

日本国特許庁  
JAPAN PATENT OFFICE

J1046 U.S. PTO  
09/933166  
08/21/01  


別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出願年月日  
Date of Application:

2000年 9月29日

出願番号  
Application Number:

特願2000-301015

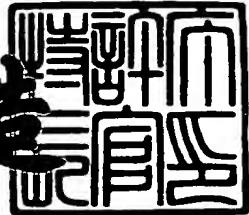
出願人  
Applicant(s):

富士通日立プラズマディスプレイ株式会社

2001年 5月31日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2001-3049699

【書類名】 特許願  
 【整理番号】 0000512  
 【提出日】 平成12年 9月29日  
 【あて先】 特許庁長官 及川 耕造 殿  
 【国際特許分類】 G09G 3/20  
                   H01L 27/092  
                   H03K 17/687  
 【発明の名称】 容量性負荷駆動回路およびそれを用いたプラズマディスプレイ装置  
 【請求項の数】 5  
 【発明者】  
   【住所又は居所】 神奈川県川崎市高津区坂戸3丁目2番1号 富士通日立  
                   プラズマディスプレイ株式会社内  
   【氏名】 佐野 勇司  
 【発明者】  
   【住所又は居所】 神奈川県川崎市高津区坂戸3丁目2番1号 富士通日立  
                   プラズマディスプレイ株式会社内  
   【氏名】 高木 彰浩  
 【発明者】  
   【住所又は居所】 神奈川県川崎市高津区坂戸3丁目2番1号 富士通日立  
                   プラズマディスプレイ株式会社内  
   【氏名】 岸 智勝  
 【特許出願人】  
   【識別番号】 599132708  
   【氏名又は名称】 富士通日立プラズマディスプレイ株式会社  
 【代理人】  
   【識別番号】 100077517  
   【弁理士】  
   【氏名又は名称】 石田 敏

【電話番号】 03-5470-1900

【選任した代理人】

【識別番号】 100100871

【弁理士】

【氏名又は名称】 土屋 繁

【選任した代理人】

【識別番号】 100082898

【弁理士】

【氏名又は名称】 西山 雅也

【選任した代理人】

【識別番号】 100081330

【弁理士】

【氏名又は名称】 橋口 外治

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 036135

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0003411

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 容量性負荷駆動回路およびそれを用いたプラズマディスプレイ装置

【特許請求の範囲】

【請求項1】 駆動電源を駆動素子を介して出力端子に接続した構成を含む容量性負荷駆動回路であって、

前記駆動電源と前記駆動素子との間に電力分散手段を挿入したことを特徴とする容量性負荷駆動回路。

【請求項2】 基準電位点を駆動素子を介して出力端子に接続した構成を含む容量性負荷駆動回路であって、

前記基準電位点と前記駆動素子との間に電力分散手段を挿入したことを特徴とする容量性負荷駆動回路。

【請求項3】 複数の容量性負荷に対応する複数の駆動素子を集積化した構成を含む容量性負荷駆動回路であって、

前記各駆動素子をそれぞれ電力分散手段を介して駆動用電源または基準電位点に接続したことを特徴とする容量性負荷駆動回路。

【請求項4】 請求項1に記載の容量性負荷駆動回路において、

前記駆動電源は、複数の異なる電圧レベルを選択して出力するようになっていることを特徴とする容量性負荷駆動回路。

【請求項5】 請求項1～4のいずれか1項に記載の容量性負荷駆動回路を電極駆動回路として用いたことを特徴とするプラズマディスプレイ装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、容量性負荷駆動回路およびそれを用いたプラズマディスプレイ装置に関し、特に、プラズマディスプレイパネルやエレクトロルミネッセンスパネル等の容量性負荷の駆動に伴う発熱を適切に処理し得る回路技術に関する。

近年、薄型の平面表示装置として、プラズマディスプレイパネル（PDP）やエレクトロルミネッセンス（EL）パネル等が研究開発されている。特に、P D

Pは、大画面および高速の表示が可能であり、また、表示品質も改善されて来ており、CRTに代わる表示装置として注目されている。しかしながら、このようなPDPにおいては、容量性負荷である各表示セル（および、配線容量等）を高電圧のパルス信号により駆動して表示を行うため、その消費電力の大きさが問題となっている。そこで、容量性負荷（表示セル等）を低消費電力で駆動する回路が提案されているが、その駆動回路自体からの放熱等の問題がある。そこで、放熱等の問題を解決し得る容量性負荷駆動回路の提供が要望されている。

## 【0002】

## 【従来の技術】

図1はプラズマディスプレイ装置の全体構成を概略的に示すブロック図である。図1において、参照符号101は表示パネル、102はアノード（アドレス）駆動回路、103はカソード（Y）駆動回路、104はサブアノード駆動回路、105は制御回路、106はX駆動回路、そして、107は放電セルを示している。

## 【0003】

以下の説明では、主としてプラズマディスプレイ装置におけるアドレス駆動回路（アドレスドライブIC）について説明するが、本発明の容量性負荷駆動回路は、プラズマディスプレイ装置のアドレス駆動回路だけでなくX駆動回路やY駆動回路のような容量性負荷（放電セル）を駆動するための回路として使用することができ、さらに、プラズマディスプレイ装置以外の様々な容量性負荷を駆動するための回路、例えば、MOSトランジスタよりなる論理ゲート（駆動されるトランジスタのゲートは容量とみなされ、また、配線等に寄生する容量等も加算されて容量性負荷と考えられる）を駆動するための回路等に幅広く適用することができる。

## 【0004】

図1は、直流型（DC型）プラズマディスプレイ装置と交流型（AC型）プラズマディスプレイ装置との両方を示すように描いており、DC型プラズマディスプレイ装置は、アノード駆動回路102、カソード駆動回路103、および、サブアノード駆動回路104を備え、また、AC型プラズマディスプレイ装置は、

アドレス駆動回路102、Y電極駆動回路103、および、X電極駆動回路106を備える。なお、表示パネル101および制御回路105は、AC型およびDC型の両方に設けられている。

#### 【0005】

すなわち、表示パネル（プラズマディスプレイパネル：PDP）101はDC型とAC型に大別され、DC型PDPは、マトリクス放電電極が各放電セル107内で露出しており、セル内の放電空間の電界制御が容易であることを特徴とする。また、DC型PDPにおいては、電極極性をアノードA1～AdとカソードK1～KLに特定しているため、放電発光状態の最適化も容易であり、さらに、隣接するアノード電極間で共用されるサブアノード電極SA1～SA(d/2)等を用いて予備放電を起こす技術を併用することで、上記のアノード・カソード間で発生させる表示用の主放電を低電圧且つ高速化することもできる。駆動部は、前述したように、アノード駆動回路102、カソード駆動回路103およびサブアノード駆動回路104の3種の駆動回路と、これらを制御する制御回路105とから構成される。

#### 【0006】

一方、AC型PDPは、マトリクス放電電極が誘電体に覆われて保護され、放電による電極劣化が抑えられて長寿命であることを特徴とする。また、水平ライン方向のX電極およびY電極を設けた前面板と垂直カラム方向のアドレス電極のある背面板を垂直に張合わせるだけの簡単な3電極面放電AC型PDP）が実用化されており、高精細化も容易となっている。駆動部は、前述したように、ビデオデータに応じて発光セルをカラム方向に選択するアドレス駆動回路102、各ラインを選択スキャンするY駆動回路103および主発光用のサステインパルスを全ラインに同時印加するX駆動回路106の3種の駆動回路と、これらを制御する制御回路105とから構成される。

#### 【0007】

ここで、各電極の駆動端子は、パネル端部のダミー電極を除き全て回路グランドから直流通じて絶縁されており、駆動回路の負荷としては容量性インピーダンスが支配的となる。

従来、容量性負荷のパルス駆動回路の低消費電力化技術としては、共振現象による負荷容量とインダクタンスとの間のエネルギーの受け渡しを応用した電力回收回路が知られている。具体的に、アドレス電極駆動回路のような個々の負荷電極を表示映像に応じて相互に独立した電圧で駆動するための負荷容量が大きく変化する駆動回路に適した電力回収技術として、特開平5-249916号公報に記載の低電力駆動回路が挙げられる。

#### 【0008】

図2は従来のプラズマディスプレイ装置の駆動回路の一例を示すブロック図であり、上記の特開平5-249916号公報に開示された低電力駆動回路を示すものである。図2において、参照符号110は電力回收回路、111は電力回收回路の出力端子、120はアドレス駆動回路（アドレスドライブIC）、121はアドレスドライブICの電源端子、122はドライブIC120内の出力回路、そして、123はアドレスドライブICの出力端子を示している。なお、参照符号CLは、放電セルおよび配線容量等を含む負荷容量を示している。

#### 【0009】

図2に示す従来の容量性負荷駆動回路は、共振用インダクタンスを備えた電力回收回路110を用いてアドレスドライブIC120の電源端子121を駆動することで消費電力を抑えている。電力回收回路110は、プラズマディスプレイパネルのアドレス電極にアドレス放電を生じさせるタイミングにおいては通常の一定アドレス駆動電圧を出力し、そして、アドレスドライブIC内出力回路122のスイッチング状態が切り換わる前に電源端子121の電圧をグランドレベルまで落とす。その際、電力回收回路110内の共振用インダクタンスと高レベルに駆動されている任意の数（例えば、最大：n個）のアドレス電極の合成負荷容量（例えば、最大： $n \times CL$ ）との間に共振が生じて、アドレスドライブIC内出力回路122の出力素子における消費電力が大きく抑制されるようになっている。

#### 【0010】

アドレスドライブICの電源電圧を一定にした従来の容量性負荷駆動回路は、放電セルをスイッチングさせる前後の負荷容量CLにおける蓄積エネルギーの変

化分の全てが充放電電流経路中の抵抗性インピーダンス部分において消費され、電力回收回路110を用いた場合には、出力電圧の共振中心となるアドレス駆動電圧の中間電位を基準として負荷容量に蓄えられた位置エネルギー量が、回收回路内の共振インダクタンスを介して維持される。そして、電源電圧がグランドにあるときに出力回路122のスイッチング状態を切り換える、その後、再びアドレスドライブICの電源電圧を共振を経て通常の一定駆動電圧まで立ち上げ、これにより電力消費を抑えるようになっている。

#### 【0011】

##### 【発明が解決しようとする課題】

上述した図2に示す従来の容量性負荷駆動回路は、共振現象を利用して電力の回収を図るものであるが、近年のプラズマディスプレイパネルにおける高精細化や大画面化に伴って消費電力の抑制効果が大幅に損なわれることになって来ている。すなわち、パネルを高精細化するために駆動回路の出力周波数を上げた場合、パネルの制御性能を維持するために上記の共振時間の削減が必要になる。その際、電力回收回路110に設けた共振用インダクタンスは、その値を小さくしなければならず、共振のQの低下に伴って電力抑制効果が減少することになる。また、パネルの大画面化に伴ってアドレス電極の寄生容量も増加することになり、共振時間の増加を抑えるためには、やはり共振用インダクタンスの値を小さくする必要があり、その結果、電力抑制効果が減少してしまう。

#### 【0012】

駆動回路の消費電力が十分に抑制できない場合には、ディスプレイ各部の放熱コストや部品コストが増大し、さらには、ディスプレイ装置自体の放熱限界により発光輝度が抑制されたり、フラットパネルディスプレイの持ち味である薄型軽量化を十分に發揮させることができない事にもなる。

さらに、駆動回路の出力周波数の上昇に伴って、プラズマディスプレイパネルを駆動する高電圧パルスによる消費電力も大きくなり、駆動回路（ドライブIC）における発熱が大きな問題となって来ている。

#### 【0013】

本発明の目的は、上述した従来の容量性負荷駆動回路が有する課題に鑑み、容

量性負荷を駆動する回路における発熱（電力消費）を分散することのできる容量性負荷駆動回路およびそれを用いたプラズマディスプレイ装置を提供することにある。

## 【0014】

## 【課題を解決するための手段】

本発明によれば、駆動電源または基準電位点を駆動素子を介して出力端子に接続した構成を含む容量性負荷駆動回路において、駆動電源または基準電位点と駆動素子との間に電力分散手段を挿入し、この電力分散手段により電力消費を分散するようになっている。

## 【0015】

さらに、本発明によれば、複数の容量性負荷に対応する複数の駆動素子を集積化した構成を含む容量性負荷駆動回路において、各駆動素子をそれぞれ電力分散手段を介して駆動用電源または基準電位点に接続し、各電力分散手段により電力消費を分散するようになっている。

図3は本発明に係る容量性負荷駆動回路の原理構成を説明するためのブロック図である。図3において、参照符号1は駆動電源、2は電力分散手段、3は容量性負荷駆動回路（アドレスドライブIC）、4は基準電位点（接地点）、5は容量性負荷（負荷容量）、6および7は駆動素子、8および9はアドレスドライブICの電源端子および接地端子（基準電位端子）、そして、10はアドレスドライブICの端子を示している。

## 【0016】

図3に示されるように、負荷容量5を駆動する際に流れる駆動電流は、駆動電源1から電力分散手段2および駆動素子6を介して負荷容量5に流れる。その際、消費される電力は、電力分散手段2および駆動素子6の抵抗性インピーダンスの比率に応じて分散される。この電力削減効果は、図2を参照して説明した従来の共振現象による電力回収方式を用いた場合とは異なり、負荷容量5の値や駆動速度（駆動周波数）が増加しても損なわれることはない。

## 【0017】

このように、本発明によれば、アドレスドライブIC（容量性負荷駆動回路）

3で消費される電力を削減することができる。すなわち、全体としての消費電力は同じであるが、従来ではアドレスドライブIC3において消費される電力の一部を電力分散手段2で消費させることにより、アドレスドライブIC3の放熱構造を簡略化することができ、回路コストを低減することができる。

#### 【0018】

ここで、フラットパネルディスプレイ装置、特に、駆動電圧が高い上に大画面化および高精細化が進んで来ているプラズマディスプレイ装置においては、大きな負荷容量と高い駆動速度の表示パネル駆動回路を多数使用しなければならないため、本発明に係る容量性負荷駆動回路を適用することにより、放熱コストを大幅に削減し、高圧LSIを極めて小さい空間に実装することが可能となる。

#### 【0019】

なお、本発明に係る容量性負荷駆動回路の適用は、多数の容量性負荷（放電セル等）を高電圧パルスで駆動するプラズマディスプレイ装置に対して大きな効果を発揮させることができるが、このプラズマディスプレイ装置に限定されるものではなく、様々な容量性負荷を駆動する回路に対して幅広く適用することができる。

#### 【0020】

##### 【発明の実施の形態】

以下、本発明に係る容量性負荷駆動回路およびプラズマディスプレイ装置の実施例を、添付図面を参照して詳述する。

図4は本発明に係る容量性負荷駆動回路の第1実施例を示すブロック図である。図4において、参考符号1は駆動電源、21は電力分散手段、3はアドレスドライブIC、4は基準電位点（接地点）、5は負荷容量、6および7は駆動素子、8および9はアドレスドライブICの電源端子および基準電位端子（接地端子）、そして、10はアドレスドライブICの出力端子を示している。

#### 【0021】

図4に示されるように、本第1実施例では、電力分散手段21が駆動電源1とアドレスドライブIC3の高電位電源端子8との間に設けられており、この電力分散手段は、駆動素子6が有する導通時の抵抗性インピーダンスの1/10程度

よりも高い抵抗性インピーダンス（抵抗素子）21として構成されている。本第1実施例により、負荷駆動時の駆動素子6における消費電力の約1/10以上を抵抗素子21に分散して駆動回路3の電力消費を抑えることができる。

#### 【0022】

ここで、抵抗素子（電力分散手段）21のインピーダンスを駆動素子6が有する導通時の抵抗性インピーダンスの1/10程度よりも高い値とするのは、それよりも低い値では、抵抗素子21に分散される電力が小さ過ぎて実質的な電力分散の効果が得られないと考えられるからである。なお、抵抗素子21のインピーダンスの上限に関しては、あまり値を大きくし過ぎると、電力分散の効果は大きくなるものの駆動波形が鈍るため、駆動回路が適用される個々のシステム（ディスプレイ装置等）に応じて適切な範囲が決められることになる。従って、抵抗素子21には可能な限り大きな抵抗値を用い、その消費電力が駆動素子における消費電力よりも大きく出来るように、安価に信頼性が確保できる高電力抵抗器を用いる事が好ましい。

#### 【0023】

図5は本発明に係る容量性負荷駆動回路の第2実施例を示すブロック図である。

図5に示されるように、本第2実施例は、上述した第1実施例における電力分散手段を定電流源22として構成したものである。本第2実施例の駆動回路は、同一の駆動条件においては、駆動素子6に流れる電流実効値を最小にすることができるため、駆動回路3の消費電力を原理的に最も低い値とすることが可能となる。

#### 【0024】

図6は図5に示す容量性負荷駆動回路における定電流源の一例を示す回路図である。

図6に示されるように、定電流源22は、例えば、nチャネル型MOSトランジスタ（nMOSトランジスタ）221のゲート・ソース間電圧をツェナーダイオード222で一定電圧にバイアスするようになっている。トランジスタ221の素子バラツキによる電流精度劣化を補償すべく、トランジスタ221のソース

には図示したように抵抗225を直列接続しても良い。また、トランジスタ221のゲート・ドレイ、間には抵抗素子223を接続してツェナーダイオード222をバイアスしている。本実施例では、この定電流源22（トランジスタ221）で電力が分散（消費）されて発熱することになるが、例えば、この定電流源22はIC化されて放熱板に取り付けられ、或いは、ディスクリートのトランジスタ221が放熱板等に取り付けられて使用される。なお、定電流源22は、ゲートおよびソースを接続した1つのMOSトランジスタにより構成することもできる。

#### 【0025】

ここで、例えば、図5における1つの駆動電源1を用いて、複数の定電流源22を介して複数の駆動回路3（駆動素子6）に電力を供給する場合には、各駆動回路3の間ににおける干渉を避けるために各定電流源22に対してダイオード224を直列に挿入するように構成してもよい。また、後述するように、駆動電源1の電圧を切り換える場合には、ダイオード224を直列挿入した定電流源回路22を相互に反対方向に電流が流れるように並列接続して電流分散手段を構成することもできる。

#### 【0026】

図7は本発明に係る容量性負荷駆動回路の第3実施例を示すブロック図であり、図8は図7に示す第3実施例における駆動電源の動作を説明するための図である。本第3実施例は、駆動電源1の構成を特徴とするものであり、他の構成（アドレスドライブIC3および電力分散手段2）は前述した図3の駆動回路と同様である。

#### 【0027】

図7に示されるように、駆動電源1は、電圧源10および11、並びに、スイッチ12～14を備えて構成され、各スイッチ12～14のいずれかを選択（オン）することで、電力分散手段2を介してアドレスドライブIC3の電源端子8に印加する電圧を切り換えるようになっている。

駆動電源1は、スイッチ12がオンした時に高電位の電源電圧V2を出力し、スイッチ13がオンした時に中間電圧V1を出力し、スイッチ14がオンした時

に接地電位V0を出力するようになっている。そして、図8に示されるように、駆動電源1は、駆動素子6のオン／オフ状態を維持しつつ、その出力電圧VDを、容量性負荷(CL)5を駆動する駆動電圧VCの電圧振幅の間で複数の電圧(V0, V1, V2)に切り換えるながら段階的に上昇および低下する。これにより、駆動電流の振幅を削減してその実効値を低減し、駆動電源1を含めた駆動回路系全体の消費電力を削減することが可能となる。なお、駆動電源1において、スイッチにより切り換える電圧は、高電位電源電圧V2、低電位電源電圧V0および中間電位電源電圧V1に限定されるものではなく、例えば、高電位電源電圧V2と低電位電源電圧V0を均等にM分割し、それに対応するM+1個のスイッチにより出力電圧VDを制御するようにしてもよい。この場合には、駆動回路系全体の消費電力を1/Mにまで削減することができる。また、駆動素子6として出力端子間にダイオードの寄生したMOSFETのような双方向性素子を用いることにより、負荷容量5の充電と放電に伴なう全ての電力消費を電力分散手段2に分散できるようになる。この場合、駆動素子7における電力消費は無視できるようになる。

## 【0028】

図9は本発明に係る容量性負荷駆動回路の第4実施例を示すブロック図である。

本第4実施例では、上述した図7の駆動電源回路1のスイッチ12;13;14として、ゲート電圧が駆動電源制御回路15により制御されたnMOSトランジスタ121;131, 132;141を使用し、図5に示す第2実施例のように定電流源による電力分散手段の機能も兼用させるようになっている。なお、本第4実施例では、トランジスタ131および132のドレインに直列にダイオード130および1301が設けられているが、これらのダイオードはトランジスタ131および132のソースに直列挿入してもよい。また、図9では、駆動電源回路1のスイッチとしてnMOSトランジスタを使用しているが、他にpMOSトランジスタやバイポーラトランジスタ等の能動素子を適用することもできるのはいうまでもない。

## 【0029】

このように、本第4実施例は、駆動電源回路1のスイッチ（電圧切り換え手段）としてnMOSトランジスタ（能動素子）を適用し、その能動素子の制御端子（ゲート）を定電圧や定電流制御することによって、その出力特性を定電流化するようになっている。これにより、駆動回路3を含めた駆動系全体の消費電力を十分に削減できると共に、使用素子数をも削減することが可能となる。

## 【0030】

図10は本発明に係る容量性負荷駆動回路の第5実施例を示すブロック図である。

図10に示されるように、本第5実施例では、電力分散手段23がアドレスドライブIC（駆動回路）3の低電位電源端子9と基準電位点（接地点）4との間に設けられている。

## 【0031】

このように、負荷容量5の電圧を基準電位点（例えば、接地点）4の電位に駆動する際にも、負荷容量5と基準電位点4との間の駆動素子7に電力分散手段23を直列に挿入することにより、駆動素子7における消費電力を削減して電力分散手段23に分散することができる。すなわち、アドレスドライブIC（容量性負荷駆動回路）3において消費される電力の一部を電力分散手段23で消費させることにより、駆動回路3の放熱構造を簡略化して回路コストを低減することができる。

## 【0032】

図11は本発明に係る容量性負荷駆動回路の第6実施例を示すブロック図である。

本第6実施例は、前述した第1実施例と同様に、第5実施例における電力分散手段23を抵抗素子（抵抗性インピーダンス）24として構成したものである。ここで、抵抗素子24のインピーダンスは、駆動素子7が有する導通時の抵抗性インピーダンスの1/10程度よりも高い値とされ、これにより、負荷駆動時の駆動素子7における消費電力の約1/10以上を抵抗素子24に分散して駆動回路3の電力消費を抑えるようになっている。

## 【0033】

図12は本発明に係る容量性負荷駆動回路の第7実施例を示すブロック図である。

本第7実施例は、前述した第2実施例と同様に、第5実施例における電力分散手段23を定電流源25として構成したものである。このように、電力分散手段を定電流源25で構成することにより、同一の駆動条件においては駆動素子7に流れる電流実効値を最小にすることができるため、駆動素子を介した他のいかなる駆動方法に対しても原理的に最も低い消費電力とすることが可能となる。

#### 【0034】

図13は本発明に係る容量性負荷駆動回路の第8実施例を示すブロック図である。

本第8実施例は、第1の電力分散手段26を駆動電源1と駆動回路3の高電位電源端子8との間に設けると共に、第2の電力分散手段27を基準電位点と駆動回路3の低電位電源端子9との間に設け、さらに、駆動素子6と駆動端子10との間および駆動端子10と駆動素子7との間にダイオード60および70を挿入するようになっている。

#### 【0035】

駆動回路3を用いて複数の負荷容量CL(5)を駆動する場合(集積回路化した場合)においては、駆動素子6および7の少なくとも一方に直列ダイオード60或いは70を挿入することで駆動回路3における消費電力を十分に削減することができる。すなわち、直列ダイオード60或いは70で不必要的出力電圧変化を排除することによって、共通の電源配線や接地点などに繋がる基準電位配線を介した各出力間の干渉による負荷容量への余分な駆動電流の流入を抑え、駆動回路3における消費電力を低減することができる。また、プラズマディスプレイ装置における駆動デバイスにも不必要的駆動電圧を与えずに済むので、表示画質が向上すると共に、駆動電圧マージンを抑えて駆動電圧を低下させることも可能となる。

#### 【0036】

なお、駆動回路3を用いて複数の負荷容量を駆動する場合において、電力分散手段26, 27として抵抗性インピーダンス(抵抗素子)を使用するときには、

駆動素子6、7の導通時抵抗性インピーダンスの値を出力端子数N（例えば、アドレスラインA1～Ad：d=N）で割った値の1/10程度よりも高い抵抗性インピーダンスを持たせることにより、負荷駆動時の駆動素子6、7における消費電力の約1/10以上を抵抗素子に分散して、駆動回路3の電力消費を抑えることができる。

## 【0037】

ここで、駆動回路3をプラズマディスプレイ装置におけるアドレス駆動回路（図1の102参照）として適用する場合、例えば、1つの駆動回路（アドレスドライブIC）3で384ラインを駆動するように構成（N=384）するが、このとき、駆動素子6（7）のオン抵抗を200Ωとすると、電力分散手段26（27）のインピーダンスは、 $200 \div 384 = 0.5 [\Omega]$ の1/10程度よりも大きい値、すなわち、約0.05Ω以上の値に設定することになる。これにより、アドレスドライブIC3で本来消費する電力の約1/10以上を電力分散手段26（27）に分散して、アドレスドライブIC3における発熱を低減するようになっている。

## 【0038】

図14は本発明に係る容量性負荷駆動回路の第9実施例としてのトーテンポール型アドレスドライブICの回路図である。

図14に示されるように、本第9実施例は、例えば、プラズマディスプレイ装置におけるN個のアドレス電極（A1～Ad）を駆動するためのアドレスドライブIC3であり、プルアップ側の駆動素子6-1～6-dおよびプルダウン側の駆動素子7-1～7-dの両方をnMOSトランジスタによるトーテンポール型として構成したものである。なお、プルアップ側およびプルダウン側の駆動素子は、それぞれドライブ段60および70により駆動されるようになっている。

## 【0039】

このように、駆動回路3をトーテンポール型として構成することにより、pMOSトランジスタよりも電流能力の高いnMOSトランジスタのみを用いることによるチップ面積の削減によって、駆動回路（IC）を安価に構成することができる。

図15は本発明に係る容量性負荷駆動回路の第10実施例としてのCMOS型アドレスドライブICの回路図である。

## 【0040】

図15に示されるように、本第10実施例は、例えば、プラズマディスプレイ装置におけるN個のアドレスライン(A1～Ad)を駆動するためのアドレスドライブIC3であり、プルアップ側の駆動素子60-1～60-dをpMOSトランジスタとし、プルダウン側の駆動素子70-1～70-dをnMOSトランジスタとしたCMOS型のものである。なお、プルアップ側およびプルダウン側の駆動素子は、それぞれドライブ段600および700により駆動されるようになっている。

## 【0041】

このように、駆動回路3をCMOS型として構成することにより、プルアップ側の駆動素子の駆動電力も削減でき、駆動電圧の立ち上りおよび立ち下りを対称性よく高速化することができる。

図16は本発明に係る容量性負荷駆動回路の第11実施例を示すブロック回路図である。

## 【0042】

本第11実施例は、前述した第8実施例と同様に、1つの駆動回路(ドライブIC)で複数の負荷容量5を駆動するもので、一般的な駆動集積回路を用いて安価に駆動回路を構成したものであり、プラズマディスプレイパネルのような多端子の容量性負荷を駆動する専用の駆動モジュール36(駆動回路3)は、3つの集積回路(駆動集積回路)37, 38, 39を備えて構成されている。ここで、各集積回路37, 38, 39は同様の構成とされており、前述した図14のようなトーテンポール型とされているが、CMOS型であっても構わない。なお、図16から明らかなように、各集積回路37, 38, 39は、駆動電源1の出力電圧をIC内出力前段回路の各電源端子84, 85, 86で直接受け取ると共に、電力分散手段26を介して高圧出力素子の各電源端子81, 82, 83(8)で受け取るようになっている。同様に、各集積回路37, 38, 39は、基準電位点4の電圧を各電源端子94, 95, 96で直接受け取ると共に、電力分散手段

27を介して各電源端子91, 92, 93(9)で受け取るようになっている。しかし、各電源端子84, 85, 86は、後述する図17の説明にあるように、高圧出力素子の電源端子81, 82, 83と共に化して削除してもよい。

#### 【0043】

このように、本第11実施例は、電力分散手段26を介して駆動モジュール36の電源端子8を駆動電源1に接続することにより、モジュール内の駆動素子6-1～6-d等の消費電力をモジュール外の電力分散手段26に分散し、また、電力分散手段27を介して駆動モジュール36の電源端子9を基準電位点4に接続することにより、モジュール内の駆動素子7-1～7-d等の消費電力をモジュール外の電力分散手段27に分散するようになっている。これにより、駆動モジュール36からの発熱を抑えて信頼性を向上させると共に、放熱コストを抑えて安価な駆動モジュール（容量性負荷駆動回路）を提供することが可能となる。

#### 【0044】

ここで、集積回路36, 37, 38の電源端子84, 85, 86が駆動電源1の出力に接続され、また、電源端子94, 95, 96が基準電位点4に接続されているのは、それら各集積回路36, 37, 38における高圧出力素子6-1～6-dを高速に制御し、また、各集積回路36, 37, 38におけるロジック回路等の低圧回路用グランド端子を直接基準電位点（接地端子）4に接続することで、多数のロジック信号入力端子に供給される信号電圧をグランド基準で安定に印加するためである。

#### 【0045】

図17は本発明に係る容量性負荷駆動回路の第12実施例としての駆動モジュールを構成する集積回路の一例を示すブロック回路図である。

図17に示されるように、本第12実施例は、図16に示す駆動モジュール36(3)における集積回路37(38, 39)の例である。

上述したように、集積回路37は、nMOSトランジスタよりなるトーテンポール型として構成することもできるが、本第12実施例では、MOSトランジスタよりなる出力素子620および720のゲート膜厚を厚くするなどして、入力耐電圧を駆動電源電圧値にまで高めるようにしている。これらの高圧（高耐圧

) の出力素子 620 および 720 は、その制御入力 (ゲート) がトランジスタ 621～624 およびトランジスタ 721～724 で構成される前段のフリップフロップ回路により制御され、駆動電源電圧か基準電圧 (接地電圧) のいずれかのフルスティングレベルで駆動される。これにより、電力分散手段 26 および 27 による消費電力の分散効果を高めるために高電位電源端子 81 や高圧素子用基準電位端子 (グランド端子) 91 の電位を大きく変化させた場合でも、安定に高圧出力素子 620 および 720 を制御することが可能となる。

#### 【0046】

なお、図17中のトランジスタ 620、621 および 622、並びに、721 および 722 は、フルスティングレベルで駆動されるため、入力耐電圧の高い素子が使用される。また、高圧出力素子 620 および 720 の前段におけるドライブ回路以前の回路用の電源端子 84 を設けずに、図17中の破線で示すように前段回路の電源ラインを高圧出力素子と共に用化して、集積回路 37 の端子数を削減するようにしてもよい。

#### 【0047】

図18は本発明に係る容量性負荷駆動回路の第13実施例としての駆動モジュールを構成する集積回路の他の例を示すブロック回路図である。

本第13実施例の集積回路 37 は、高圧出力素子 71-1～71-d として、ロジック電源 75 で十分に制御できる入力耐電圧の低い安価な素子 (トランジスタ) を用いるようにしたものである。すなわち、集積回路 37 は、ロジック電源 75 を受け取るロジック電源端子 97 および接地端子 94 を備え、バッファ 72-1～72-d のロジック電圧出力と、電力分散手段 27 で生じる電圧降下により nMOS トランジスタ 71-1～71-d に自己バイアスを掛けるようになっている。なお、トランジスタ 61-1～61-d は、nMOS トランジスタに限らず、pMOS トランジスタやバイポーラトランジスタを用いてもよいのはいうまでもない。

#### 【0048】

図19は本発明に係る容量性負荷駆動回路の第14実施例としての駆動モジュールを構成する集積回路のさらに他の例を示すブロック回路図である。

本第14実施例の集積回路37は、図16に示す第11実施例における集積回路37に対して、少なくとも駆動電源1と電力分散手段26との間にスイッチ素子451を設けるか或いは、基準電位点4と電力分散手段27との間にスイッチ素子481を設け、より一層、電力分散効率を高めて駆動素子の消費電力を低減するようにしたものである。すなわち、駆動素子6-1～6-dおよび7-1～7-dが完全に導通状態に切り換わってからスイッチ素子451および481を導通させることで、駆動素子の導通開始時におけるインピーダンスの下がっていない状態における電力分散効果の劣化を避けるようになっている。さらに、本第14実施例では、電力分散手段26および27だけでなく、スイッチ素子451および481においても効果的に電力を分散することができる。

#### 【0049】

以上のように、本発明の各実施例によれば、負荷の容量成分に起因する電力消費を電力分散手段に分散して駆動回路自身における消費電力を低減した容量性負荷駆動回路、特に、プラズマディスプレイ装置用の駆動回路を提供することができる。これにより、例えば、負荷容量の大きい40型クラス以上のプラズマディスプレイ装置や、駆動パルスレートの高いS V G A (800×600ドット)、X G A (1024×768ドット)、さらには、S X G A (1280×1024)といった高解像度プラズマディスプレイ装置、或いは、T V・H D T Vなどといった高輝度高階調のプラズマディスプレイ装置における放熱の問題を緩和し、小型低消費電力化を推進することができる。また、動画表示中の偽輪郭対策に伴う駆動パルスレートの増加による消費電力の増加も抑えることにもなる。

#### 【0050】

(付記1) 駆動電源を駆動素子を介して出力端子に接続した構成を含む容量性負荷駆動回路であって、

前記駆動電源と前記駆動素子との間に電力分散手段を挿入したことを特徴とする容量性負荷駆動回路。

(付記2) 付記1に記載の容量性負荷駆動回路において、

前記電力分散手段は、前記駆動素子の導通時インピーダンスの1/10以上のインピーダンスを持つ抵抗素子であることを特徴とする容量性負荷駆動回路。

【0051】

(付記3) 付記2に記載の容量性負荷駆動回路において、前記電力分散手段は、前記駆動素子の導通時インピーダンスの1/10以上のインピーダンスを持つと共に、駆動素子の許容電力以上の電力性能を備えた高電力抵抗であることを特徴とする容量性負荷駆動回路。

(付記4) 付記1に記載の容量性負荷駆動回路において、

前記電力分散手段は、定電流源であることを特徴とする容量性負荷駆動回路。

【0052】

(付記5) 付記1に記載の容量性負荷駆動回路において、  
前記駆動電源は、複数の異なる電圧レベルを選択して出力するようになっていることを特徴とする容量性負荷駆動回路。

(付記6) 付記5に記載の容量性負荷駆動回路において、

前記電力分散手段は、前記複数の異なる電圧レベルに対してそれぞれ設けられた複数の電力分散ユニットを備えることを特徴とする容量性負荷駆動回路。

【0053】

(付記7) 付記6に記載の容量性負荷駆動回路において、  
前記各電力分散ユニットは、前記異なる電圧レベルを選択するスイッチとしての機能を備えることを特徴とする容量性負荷駆動回路。

(付記8) 付記1に記載の容量性負荷駆動回路において、

前記駆動素子は、入力耐圧電圧が出力電圧よりも高い素子であることを特徴とする容量性負荷駆動回路。

【0054】

(付記9) 基準電位点を駆動素子を介して出力端子に接続した構成を含む容量性負荷駆動回路であって、

前記基準電位点と前記駆動素子との間に電力分散手段を挿入したことを特徴とする容量性負荷駆動回路。

(付記10) 付記9に記載の容量性負荷駆動回路において、

前記電力分散手段は、前記駆動素子の導通時インピーダンスの1/10以上のインピーダンスを持つ抵抗素子であることを特徴とする容量性負荷駆動回路。

【0055】

(付記11) 付記9に記載の容量性負荷駆動回路において、前記電力分散手段は、定電流源であることを特徴とする容量性負荷駆動回路。

(付記12) 付記9に記載の容量性負荷駆動回路において、前記駆動電源は、複数の異なる電圧レベルを選択して出力するようになっていることを特徴とする容量性負荷駆動回路。

【0056】

(付記13) 付記12に記載の容量性負荷駆動回路において、前記電力分散手段は、前記複数の異なる電圧レベルに対してそれぞれ設けられた複数の電力分散ユニットを備えることを特徴とする容量性負荷駆動回路。

(付記14) 付記13に記載の容量性負荷駆動回路において、前記各電力分散ユニットは、前記異なる電圧レベルを選択するスイッチとしての機能を備えることを特徴とする容量性負荷駆動回路。

【0057】

(付記15) 付記9に記載の容量性負荷駆動回路において、前記駆動素子は、入力耐圧電圧が出力電圧よりも高い素子であることを特徴とする容量性負荷駆動回路。

(付記16) 複数の容量性負荷に対応する複数の駆動素子を集積化した構成を含む容量性負荷駆動回路であって、

前記各駆動素子をそれぞれ電力分散手段を介して駆動用電源または基準電位点に接続したことを特徴とする容量性負荷駆動回路。

【0058】

(付記17) 付記16に記載の容量性負荷駆動回路において、前記各容量性負荷と前記対応する駆動素子との間にダイオードを設けたことを特徴とする容量性負荷駆動回路。

(付記18) 付記16に記載の容量性負荷駆動回路において、前記各電力分散手段は、前記駆動素子の導通時インピーダンスを前記電力分散手段への接続駆動素子数で割った値の1／10以上のインピーダンスを持つ抵抗素子であることを特徴とする容量性負荷駆動回路。

【0059】

(付記19) 付記18に記載の容量性負荷駆動回路において、前記各電力分散手段は、前記駆動素子の導通時インピーダンスを前記電力分散手段への接続駆動素子数で割った値の1／10以上のインピーダンスを持つと共に駆動素子の許容電力以上の電力性能を備えた高電力抵抗であることを特徴とする容量性負荷駆動回路。

【0060】

(付記20) 付記16に記載の容量性負荷駆動回路において、前記各電力分散手段は、定電流源であることを特徴とする容量性負荷駆動回路

(付記21) 付記16に記載の容量性負荷駆動回路において、前記駆動電源は、複数の異なる電圧レベルを選択して出力するようになっていることを特徴とする容量性負荷駆動回路。

【0061】

(付記22) 付記21に記載の容量性負荷駆動回路において、前記電力分散手段は、前記複数の異なる電圧レベルに対してそれぞれ設けられた複数の電力分散ユニットを備えることを特徴とする容量性負荷駆動回路。

(付記23) 付記22に記載の容量性負荷駆動回路において、前記各電力分散ユニットは、前記異なる電圧レベルを選択するスイッチとしての機能を備えることを特徴とする容量性負荷駆動回路。

【0062】

(付記24) 付記16に記載の容量性負荷駆動回路において、前記駆動素子は、入力耐圧電圧が出力電圧よりも高い素子であることを特徴とする容量性負荷駆動回路。

(付記25) 付記16に記載の容量性負荷駆動回路において、前記集積化した各駆動素子の接地端子を前記電力分散手段を介して前記駆動用電源に接続したことを特徴とする容量性負荷駆動回路。

【0063】

(付記26) 付記16に記載の容量性負荷駆動回路において、

前記集積化した各駆動素子の接地端子を前記電力分散手段を介して前記基準電位点に接続したことを特徴とする容量性負荷駆動回路。

(付記27) 付記16に記載の容量性負荷駆動回路において、

前記各駆動素子と前記駆動用電源または基準電位点との間に前記各電力分散手段およびスイッチ素子の直列接続を設けたことを特徴とする容量性負荷駆動回路。

【0064】

(付記28) 付記16に記載の容量性負荷駆動回路において、

前記容量性負荷駆動回路は、前記容量性負荷を駆動する複数の駆動集積回路を備えた駆動モジュールとして構成されていることを特徴とする容量性負荷駆動回路。

(付記29) 付記28に記載の容量性負荷駆動回路において、

前記各駆動集積回路は、入力耐電圧を駆動電源電圧値にまで高めた高圧の出力素子と、該出力素子の制御入力を駆動電源電圧および基準電圧のいずれかのフルスwingレベルで駆動するフリップフロップを備えることを特徴とする容量性負荷駆動回路。

【0065】

(付記30) 付記28に記載の容量性負荷駆動回路において、

前記各駆動集積回路は、ロジック電圧により駆動されるバッファを備え、該バッファの出力を前記各駆動素子の入力端子に接続し、前記電力分散手段を前記各駆動素子の反転入力端子に接続することにより、前記電力分散手段で生じる電圧降下により駆動素子に自己バイアスを掛けるようになっていることを特徴とする容量性負荷駆動回路。

【0066】

(付記31) 付記28に記載の容量性負荷駆動回路において、

前記電力分散手段と前記駆動用電源または基準電位点との間にスイッチ素子を設け、前記駆動素子が導通状態に切り換わってから該スイッチ素子を導通させるようにしたことを特徴とする容量性負荷駆動回路。

(付記32) 付記1に記載の容量性負荷駆動回路において、

前記駆動電源は、複数の異なる電圧レベルを選択して出力するようになっていることを特徴とする容量性負荷駆動回路。

## 【0067】

(付記33) 付記32に記載の容量性負荷駆動回路において、

前記駆動電源は、前記駆動素子のオン／オフ状態を維持しつつ、駆動電圧振幅の間にある前記複数の電圧レベルを切り換えて段階的に上昇および低下させるようにしたことを特徴とする容量性負荷駆動回路。

(付記34) 付記1～33のいずれか1項に記載の容量性負荷駆動回路を電極駆動回路として用いたことを特徴とするプラズマディスプレイ装置。

## 【0068】

## 【発明の効果】

以上、詳述したように、本発明によれば、容量性負荷を駆動する回路における発熱（電力消費）を分散することのできる容量性負荷駆動回路およびそれを用いたプラズマディスプレイ装置を提供することができる。

## 【図面の簡単な説明】

## 【図1】

プラズマディスプレイ装置の全体構成を概略的に示すブロック図である。

## 【図2】

従来のプラズマディスプレイ装置の駆動回路の一例を示すブロック図である。

## 【図3】

本発明に係る容量性負荷駆動回路の原理構成を説明するためのブロック図である。

## 【図4】

本発明に係る容量性負荷駆動回路の第1実施例を示すブロック図である。

## 【図5】

本発明に係る容量性負荷駆動回路の第2実施例を示すブロック図である。

## 【図6】

図5に示す容量性負荷駆動回路における定電流源の一例を示す回路図である。

## 【図7】

本発明に係る容量性負荷駆動回路の第3実施例を示すブロック図である。

【図8】

図7に示す第3実施例における駆動電源の動作を説明するための図である。

【図9】

本発明に係る容量性負荷駆動回路の第4実施例を示すブロック図である。

【図10】

本発明に係る容量性負荷駆動回路の第5実施例を示すブロック図である。

【図11】

本発明に係る容量性負荷駆動回路の第6実施例を示すブロック図である。

【図12】

本発明に係る容量性負荷駆動回路の第7実施例を示すブロック図である。

【図13】

本発明に係る容量性負荷駆動回路の第8実施例を示すブロック図である。

【図14】

本発明に係る容量性負荷駆動回路の第9実施例としてのトーテンポール型アドレスドライブI Cの回路図である。

【図15】

本発明に係る容量性負荷駆動回路の第10実施例としてのCMOS型アドレスドライブI Cの回路図である。

【図16】

本発明に係る容量性負荷駆動回路の第11実施例を示すブロック回路図である

【図17】

本発明に係る容量性負荷駆動回路の第12実施例としての駆動モジュールを構成する集積回路の一例を示すブロック回路図である。

【図18】

本発明に係る容量性負荷駆動回路の第13実施例としての駆動モジュールを構成する集積回路の他の例を示すブロック回路図である。

【図19】

本発明に係る容量性負荷駆動回路の第14実施例としての駆動モジュールを構成する集積回路のさらに他の例を示すブロック回路図である。

## 【符号の説明】

- 1 … 駆動電源
- 2, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 121, 131, 132, 1
- 4 1 … 電力分散手段
- 3 … 駆動回路
- 4 … 基準電位点
- 5 … 負荷容量
- 6, 7 … 駆動素子
- 8 … 駆動回路の電源端子
- 9 … 駆動回路の基準電位端子
- 10 … 駆動回路の出力端子
- 15 … 駆動電源制御回路
- 36 … 駆動モジュール
- 37 (38, 39) … 駆動集積回路
- 101 … プラズマディスプレイパネル
- 102 … アノード（アドレス）駆動回路
- 103 … カソード（Y）駆動回路
- 104 … サブアノード駆動回路
- 105 … 制御回路
- 106 … X駆動回路
- 107 … 放電セル
- 110 … 電力回收回路
- 120 … アドレスドライブＩＣ
- 122 … アドレスドライブＩＣ内出力回路
- 121 … アドレスドライブＩＣ電源端子

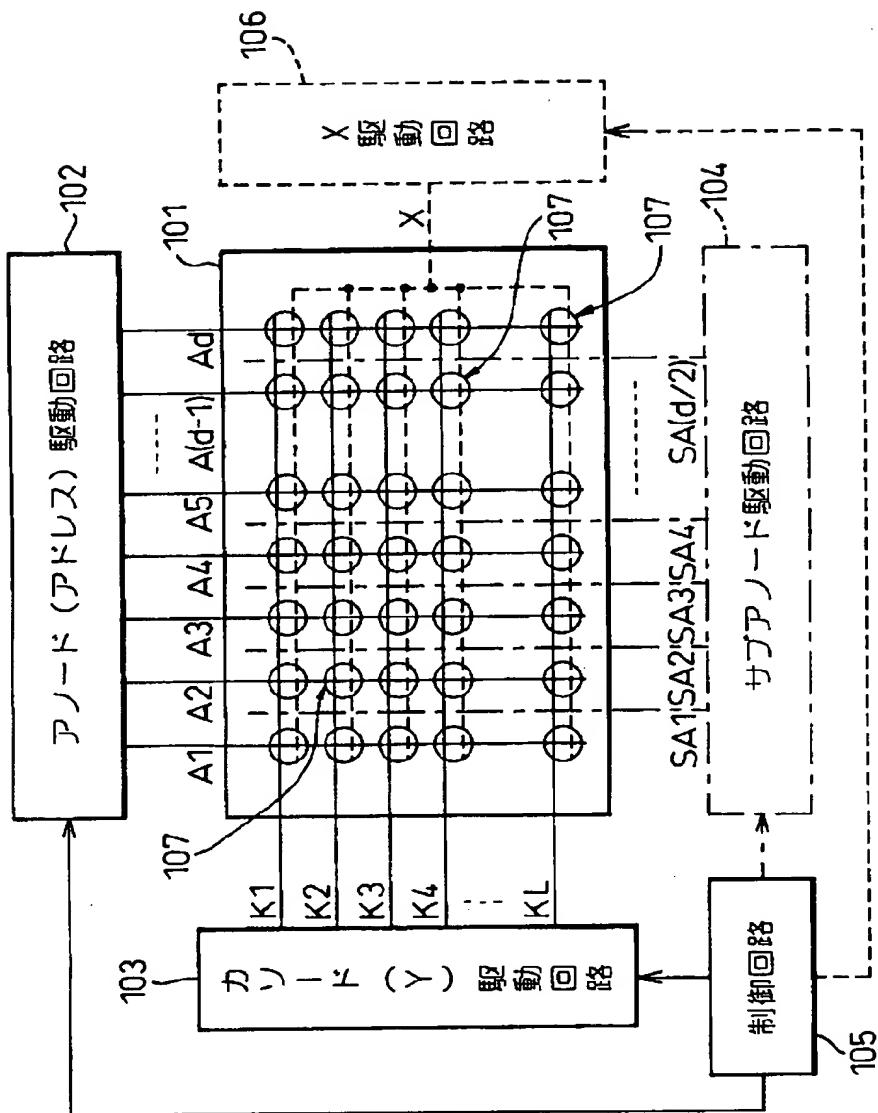
### 【書類名】

四

【図1】

1

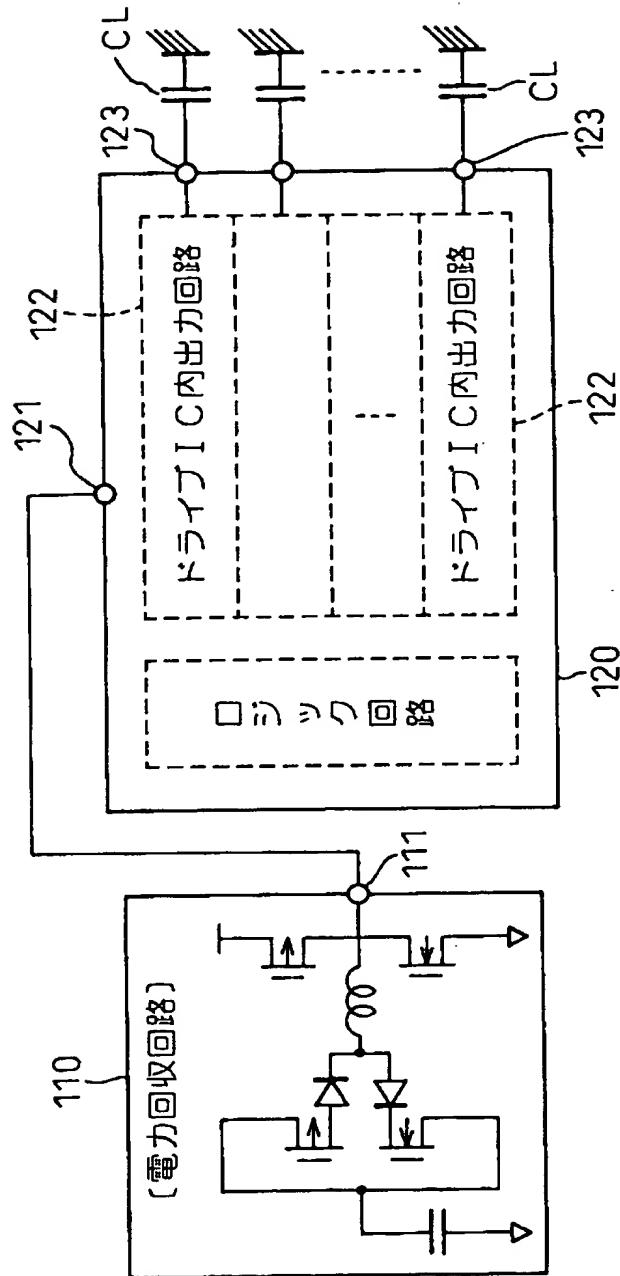
## グラフィックレイヤー構成を概略的に示すブロック図



【図2】

図2

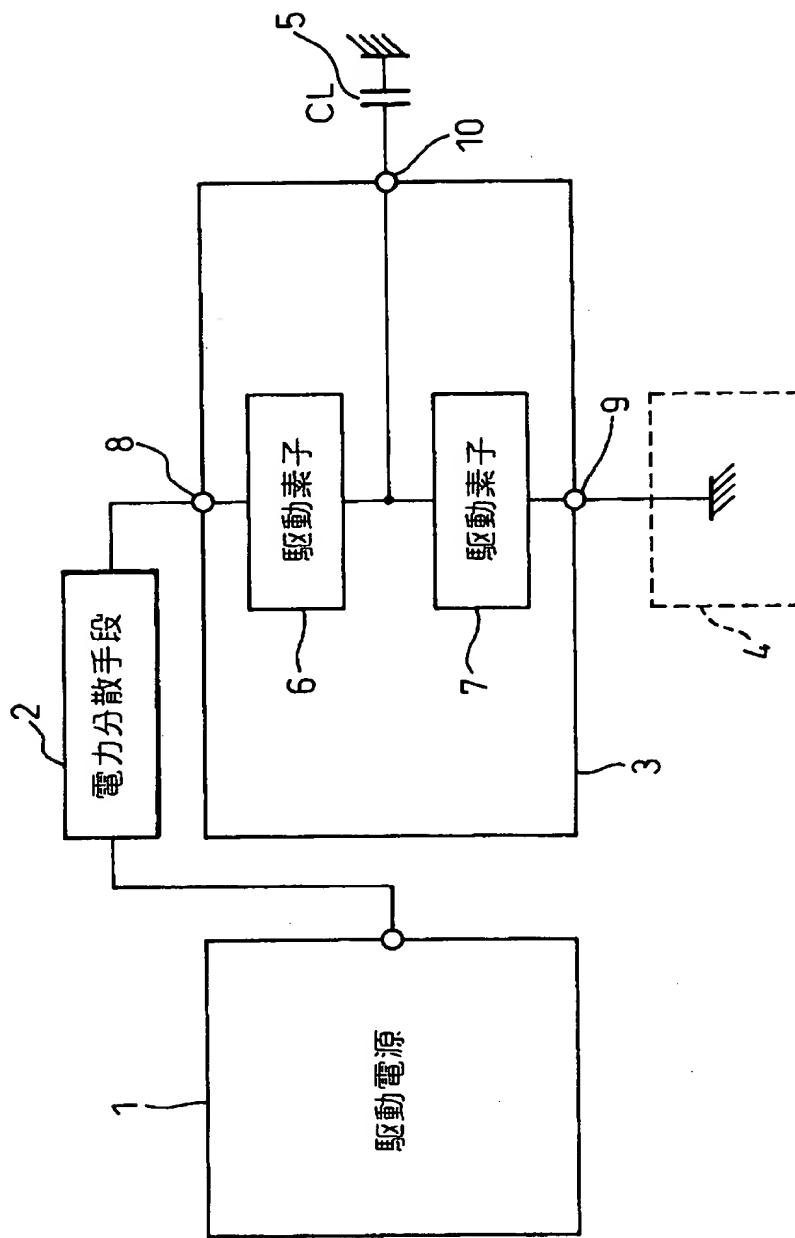
従来のプラスマディスプレイ装置の駆動回路の一例を  
示すブロック図



【図3】

図 3

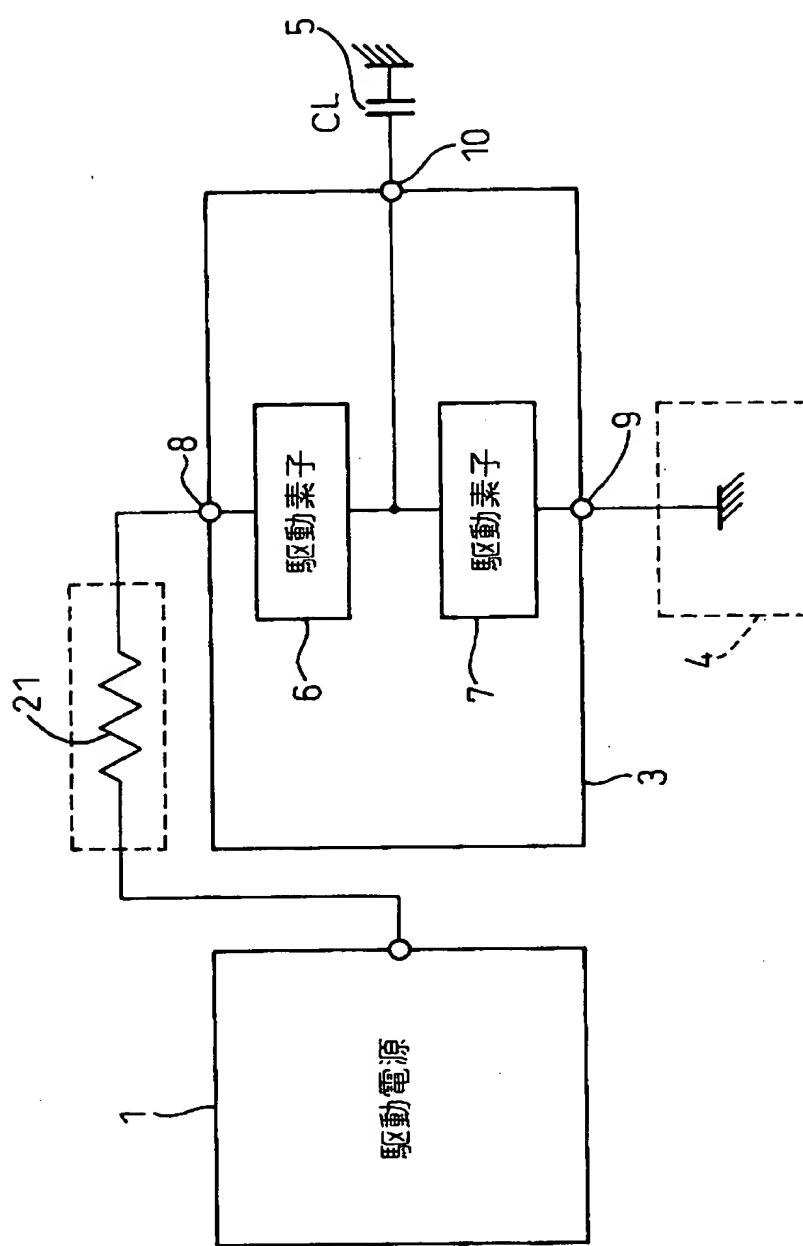
本発明に係る容量性負荷駆動回路の原理構成を  
説明するためのブロック図



【図4】

図4

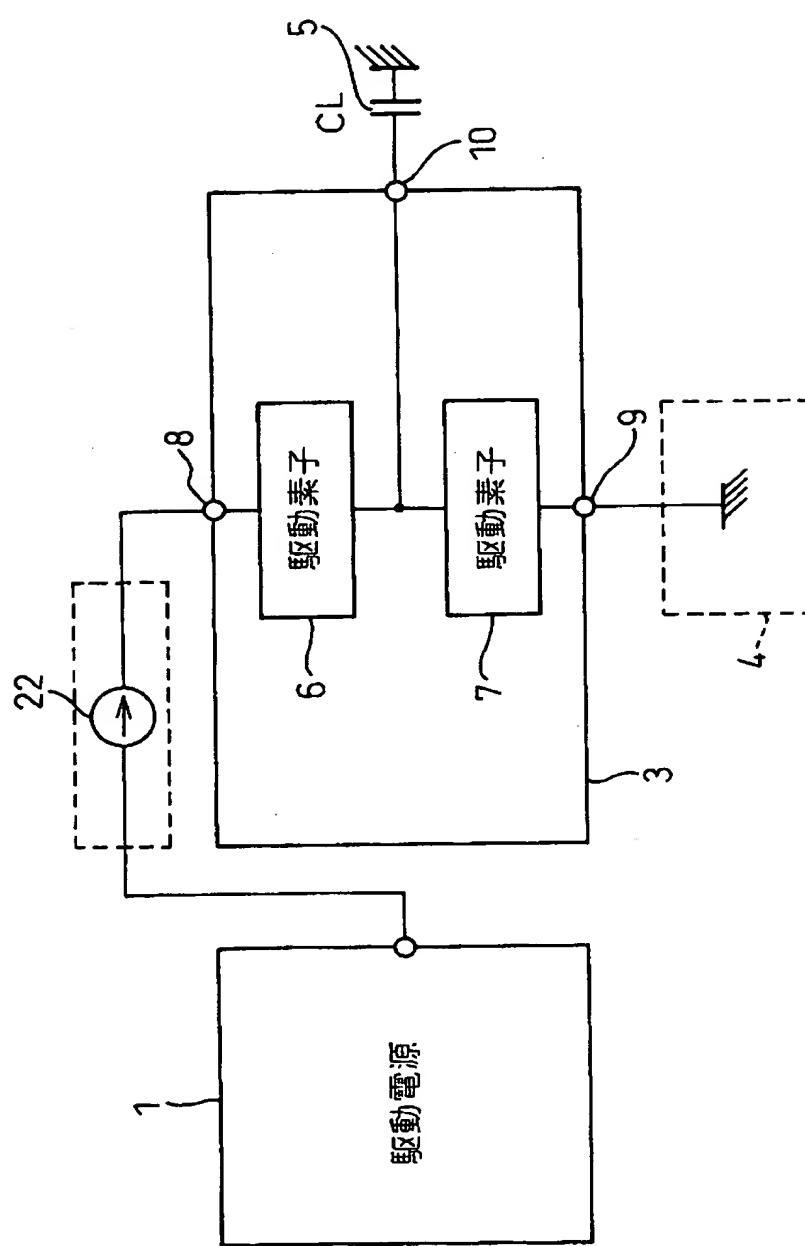
本発明に係る容量性負荷駆動回路の第1実施例を示すブロック図



【図5】

図 5

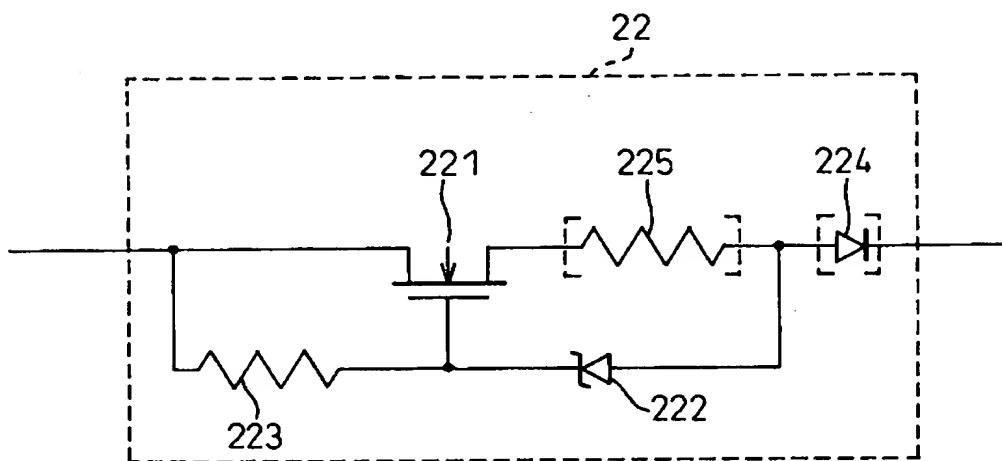
本発明に係る容量性負荷駆動回路の第2実施例を示すブロック図



【図6】

図6

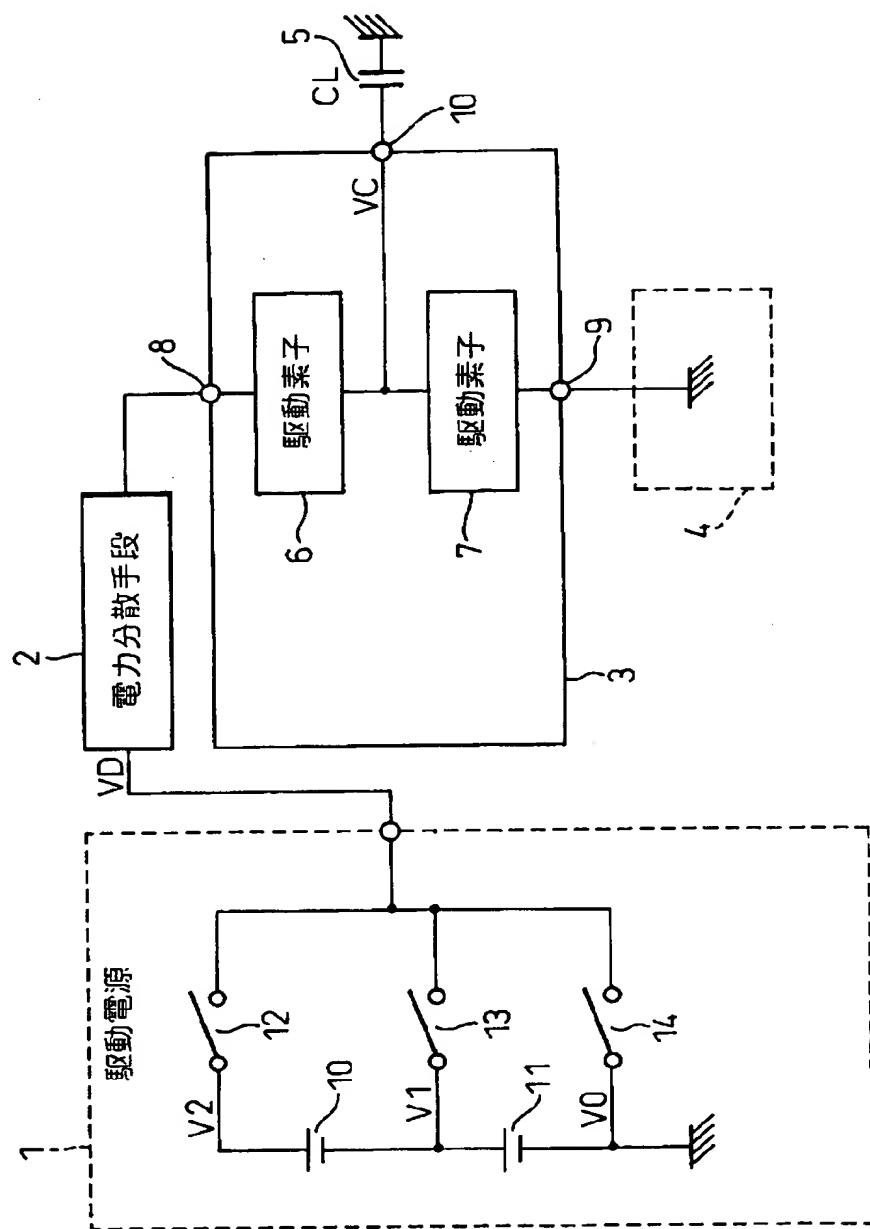
図5に示す容量性負荷駆動回路における定電流源の一例を示す回路図



【図7】

図7

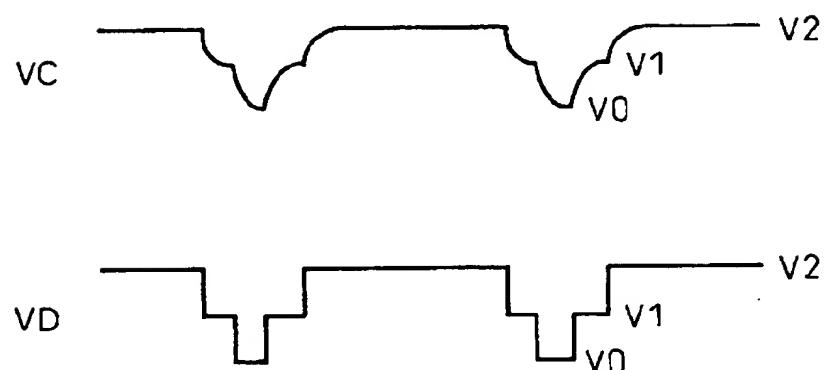
本発明に係る容量性負荷駆動回路の第3実施例を示すブロック図



【図8】

図 8

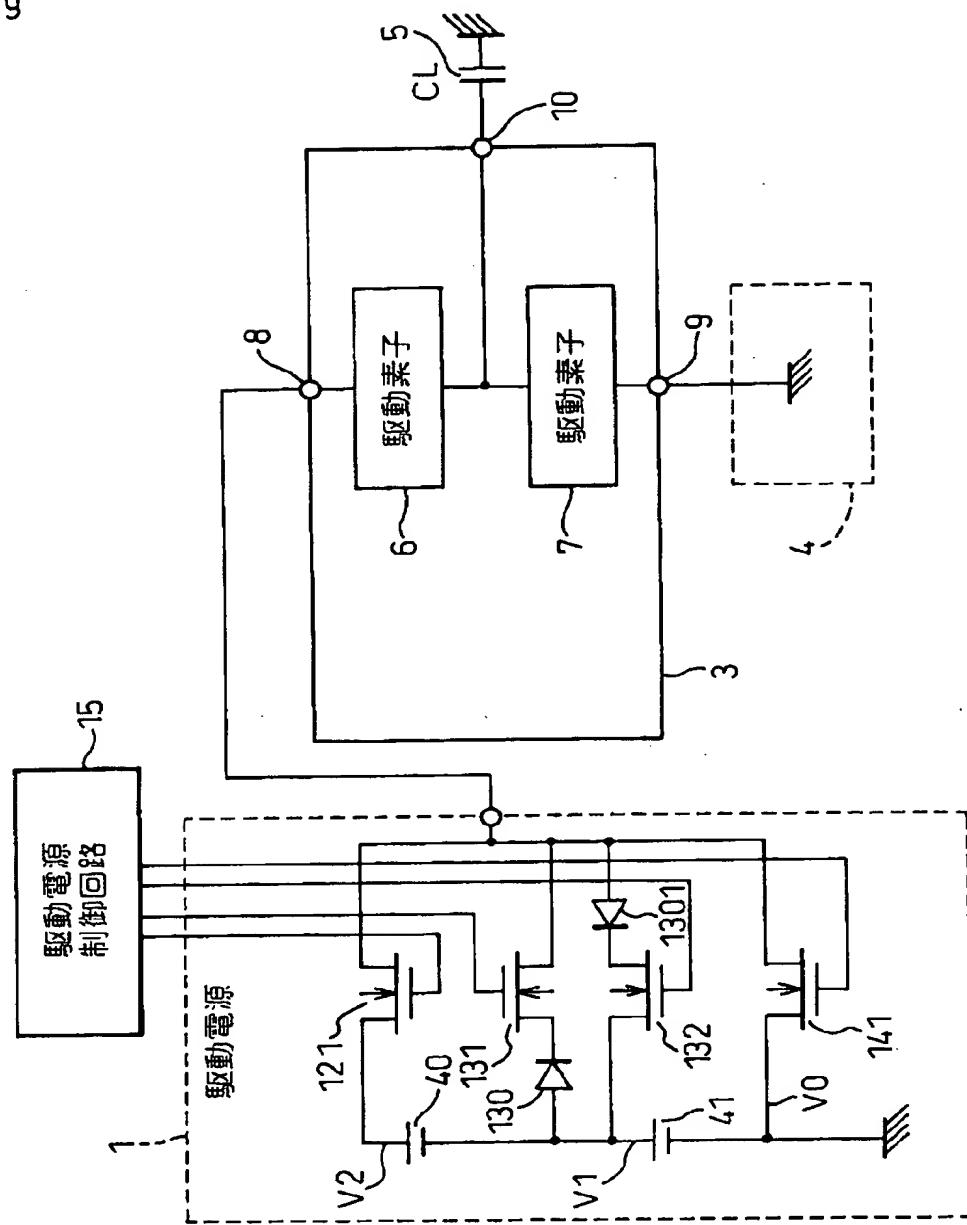
図7に示す第3実施例における駆動電源の動作を説明するための図



【図9】

図9

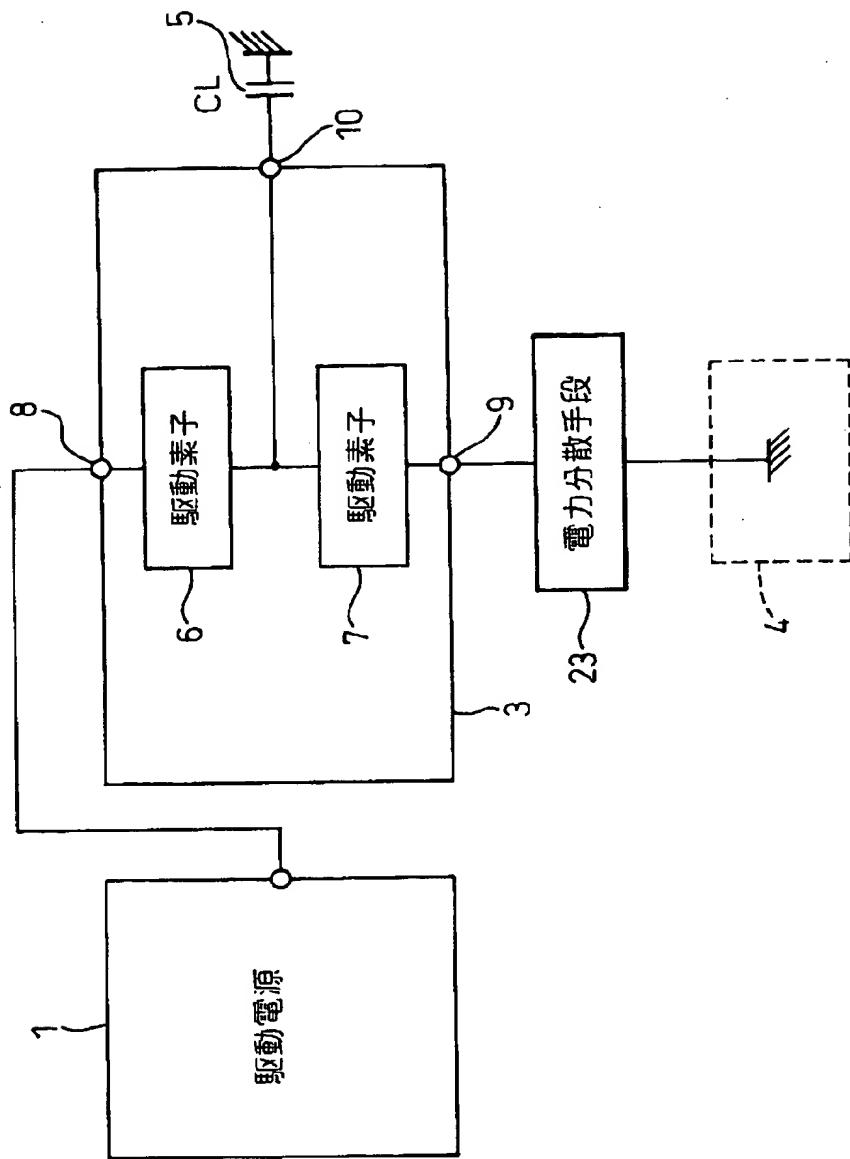
本発明に係る容量性負荷駆動回路の第4実施例を示すブロック図



【図10】

図10

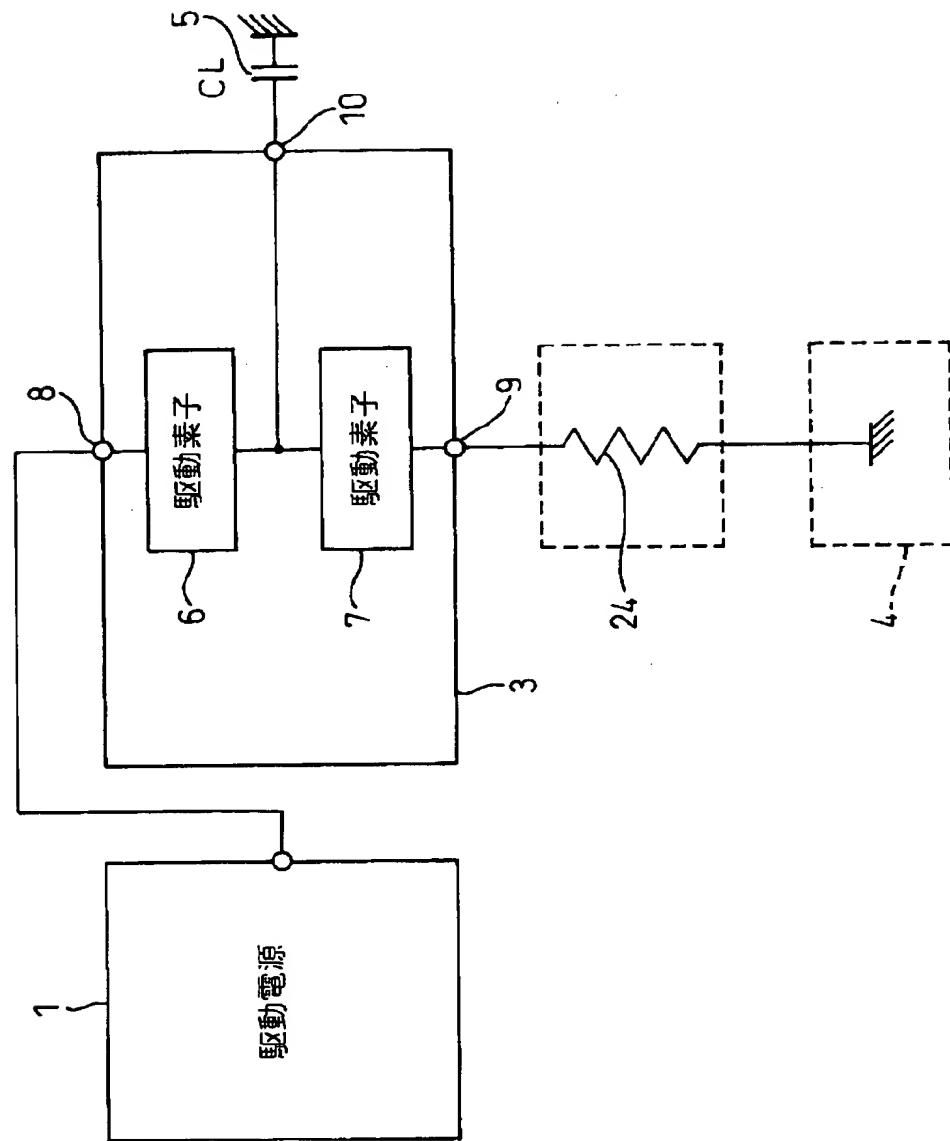
本発明に係る容量性負荷駆動回路の第5実施例を示すブロック図



【図11】

11

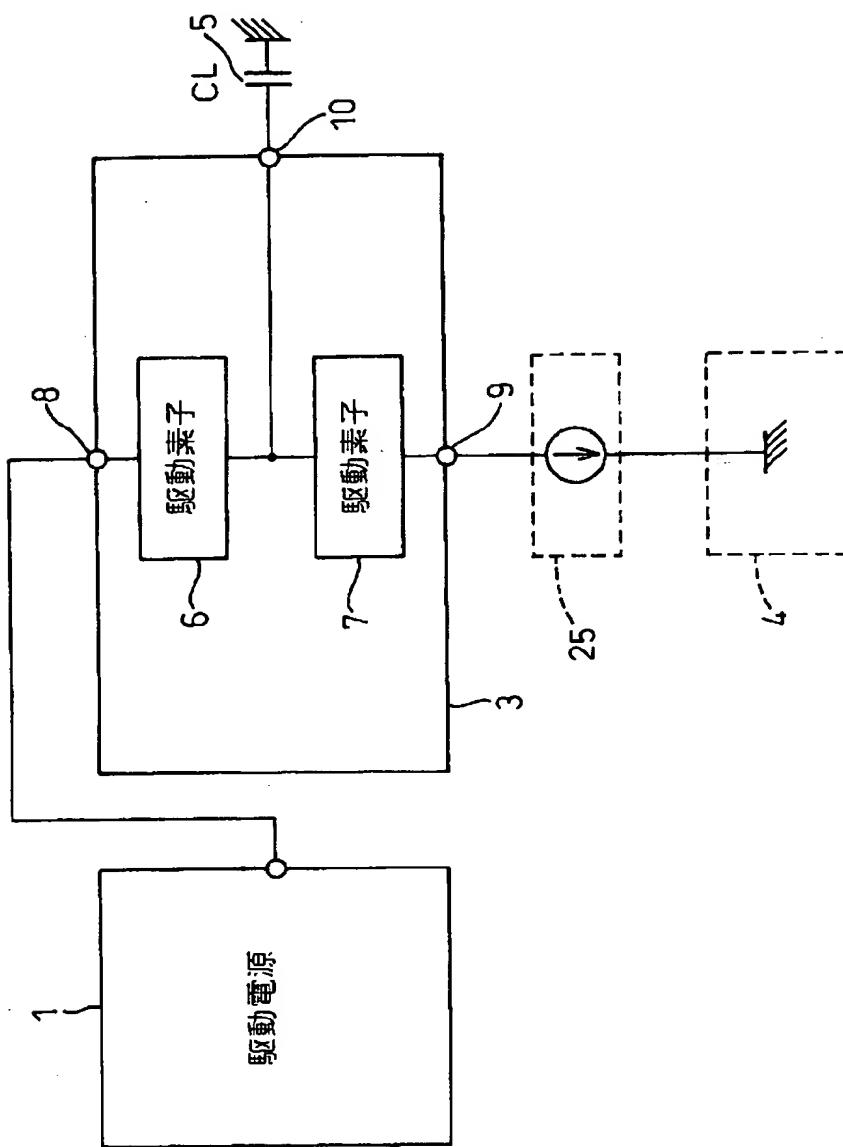
図6-1 本発明に係る容量性負荷駆動回路の第6実施例を示すブロック図



【図12】

図12

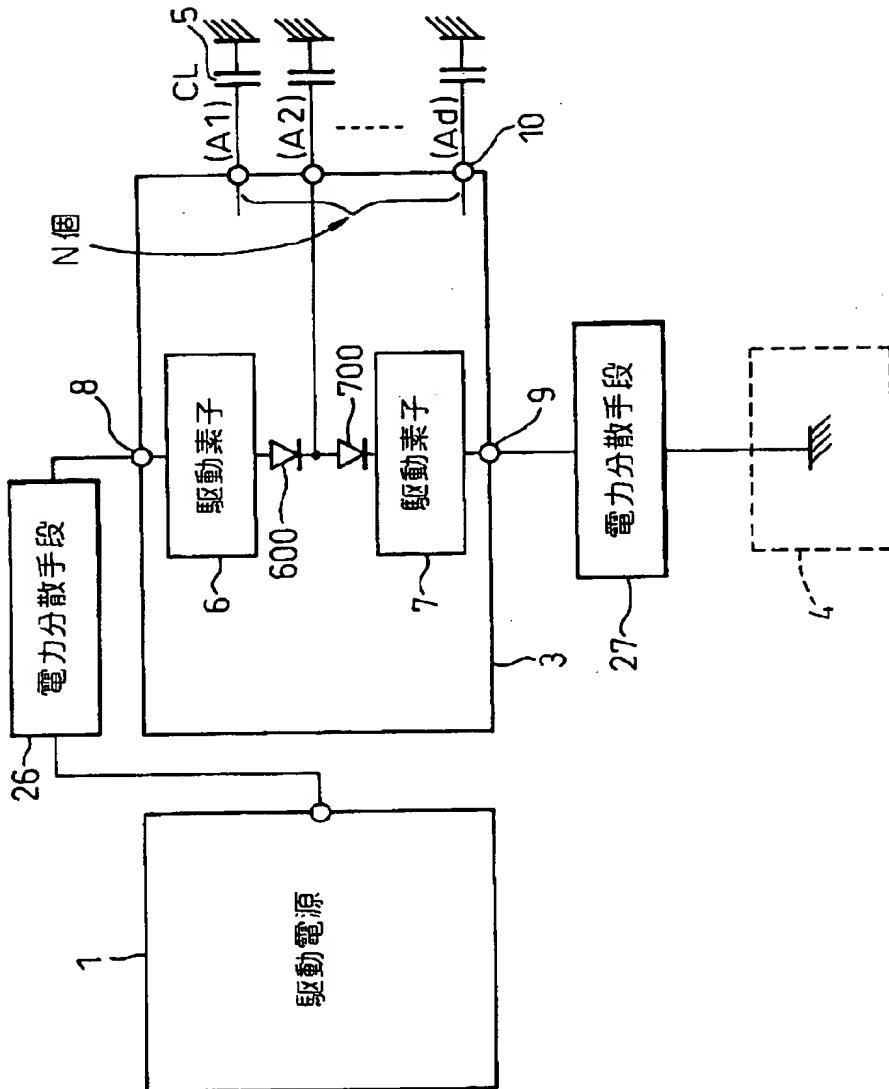
本発明に係る容量性負荷駆動回路の第7実施例を示すブロック図



【図13】

図13

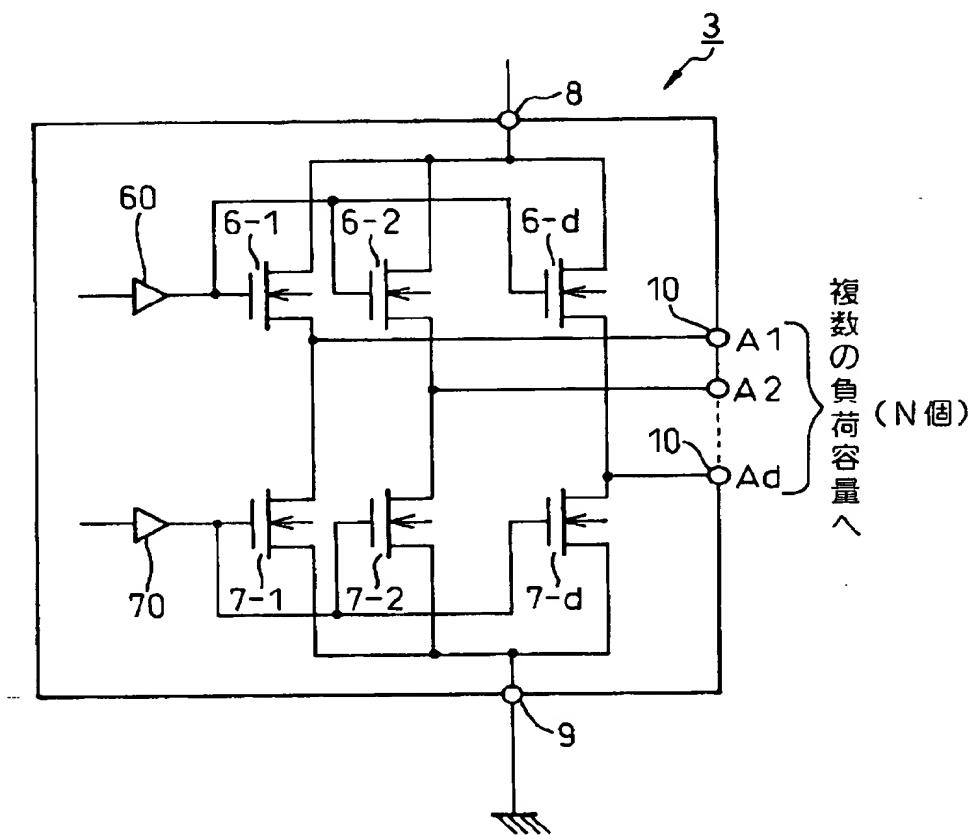
本発明に係る容量性負荷駆動回路の第8実施例を示すブロック図



【図14】

図14

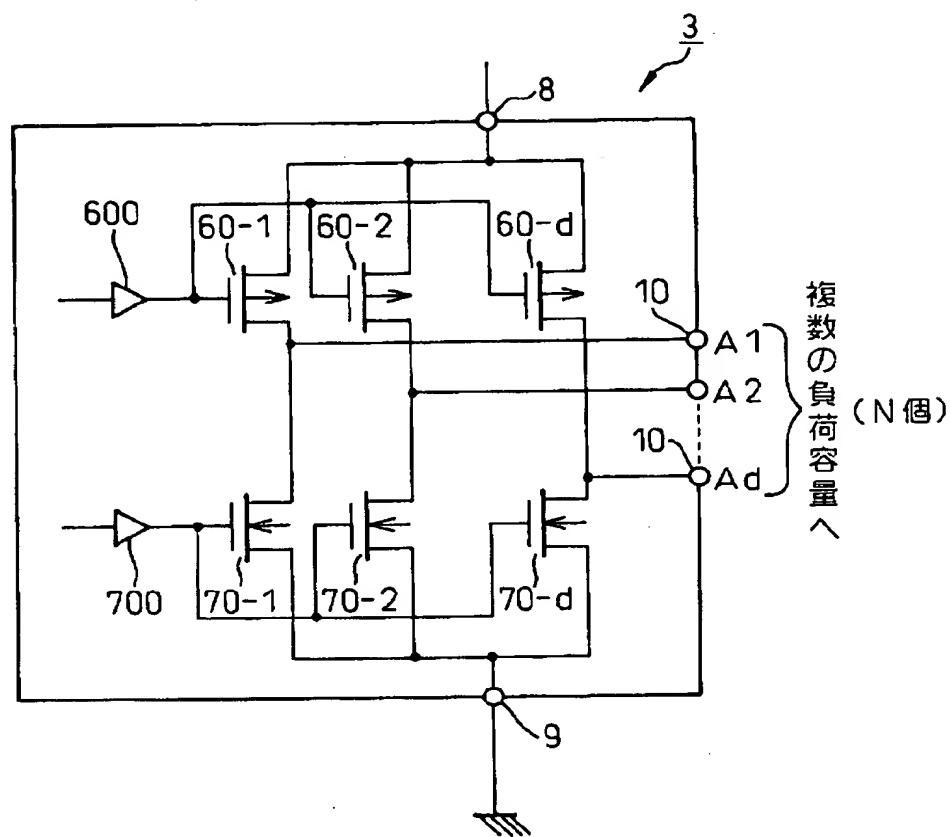
本発明に係る容量性負荷駆動回路の第9実施例としての  
トーテンポール型アドレスドライブICの回路図



【図15】

図15

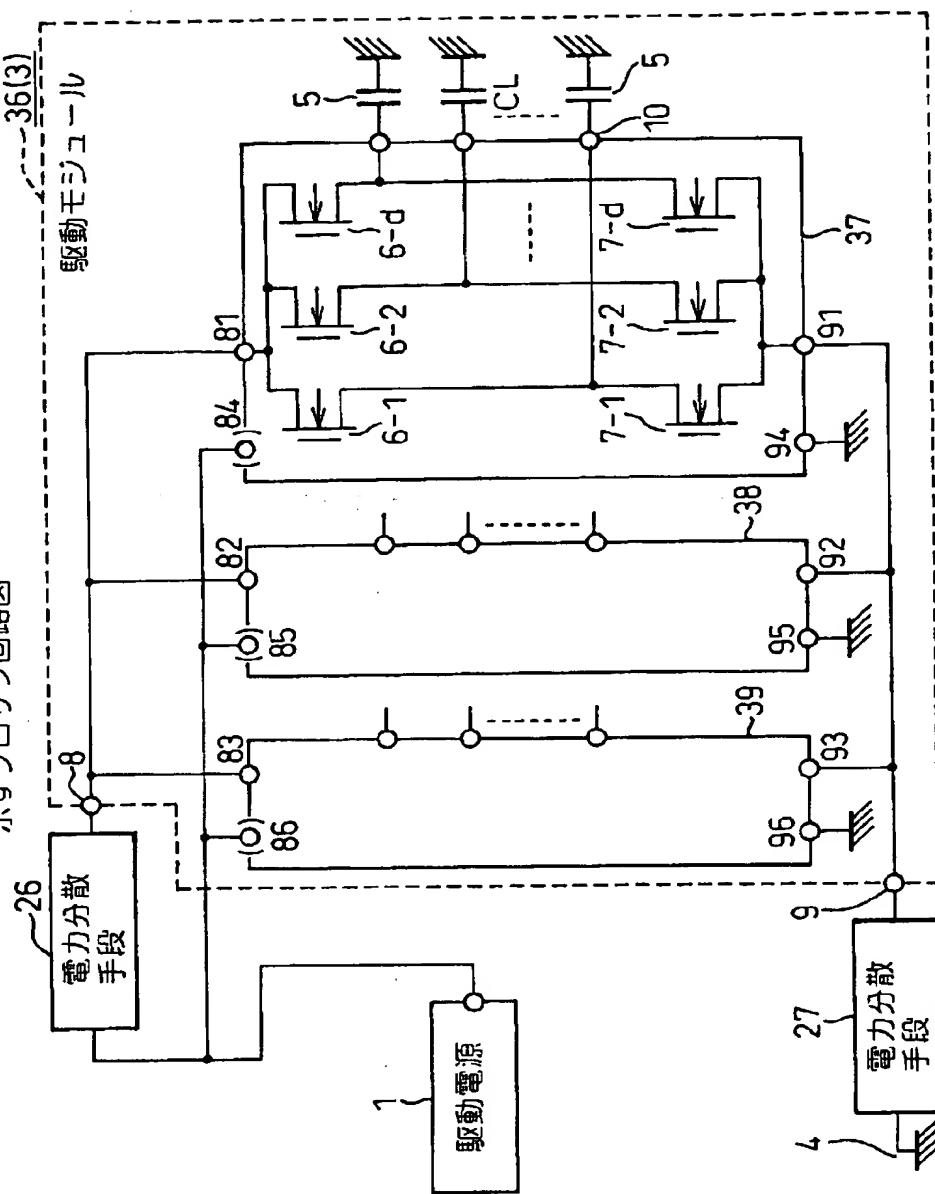
本発明に係る容量性負荷駆動回路の第10実施例としての  
CMOS型アドレスドライブICの回路図



【図16】

図16

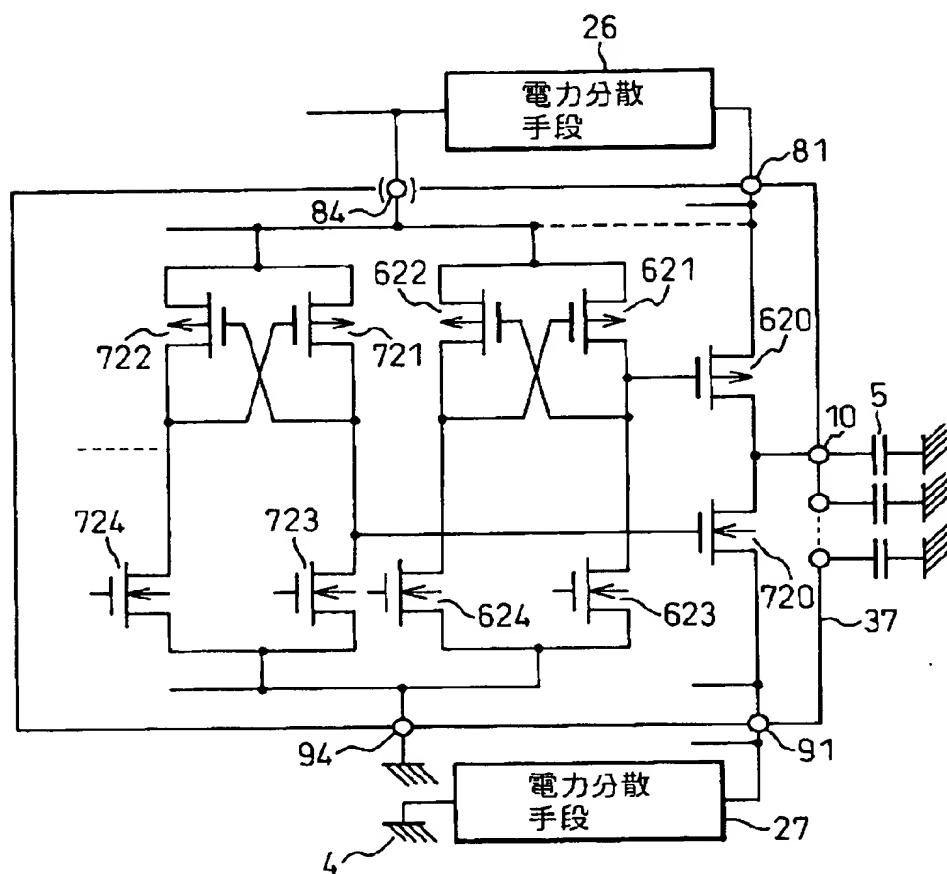
本発明に係る容量性負荷駆動回路の第11実施例を示すブロック回路図



【図17】

図17

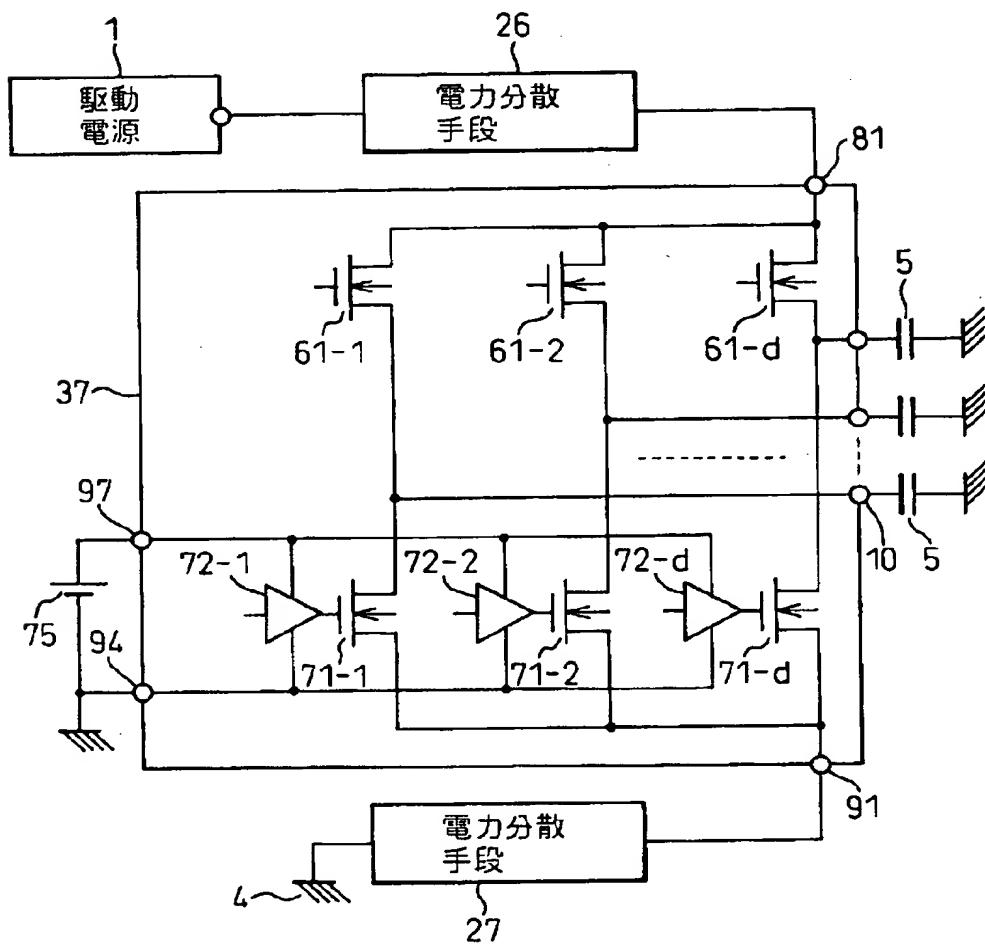
本発明に係る容量性負荷駆動回路の第12実施例としての駆動モジュールを構成する集積回路の一例を示すブロック回路図



【図18】

図18

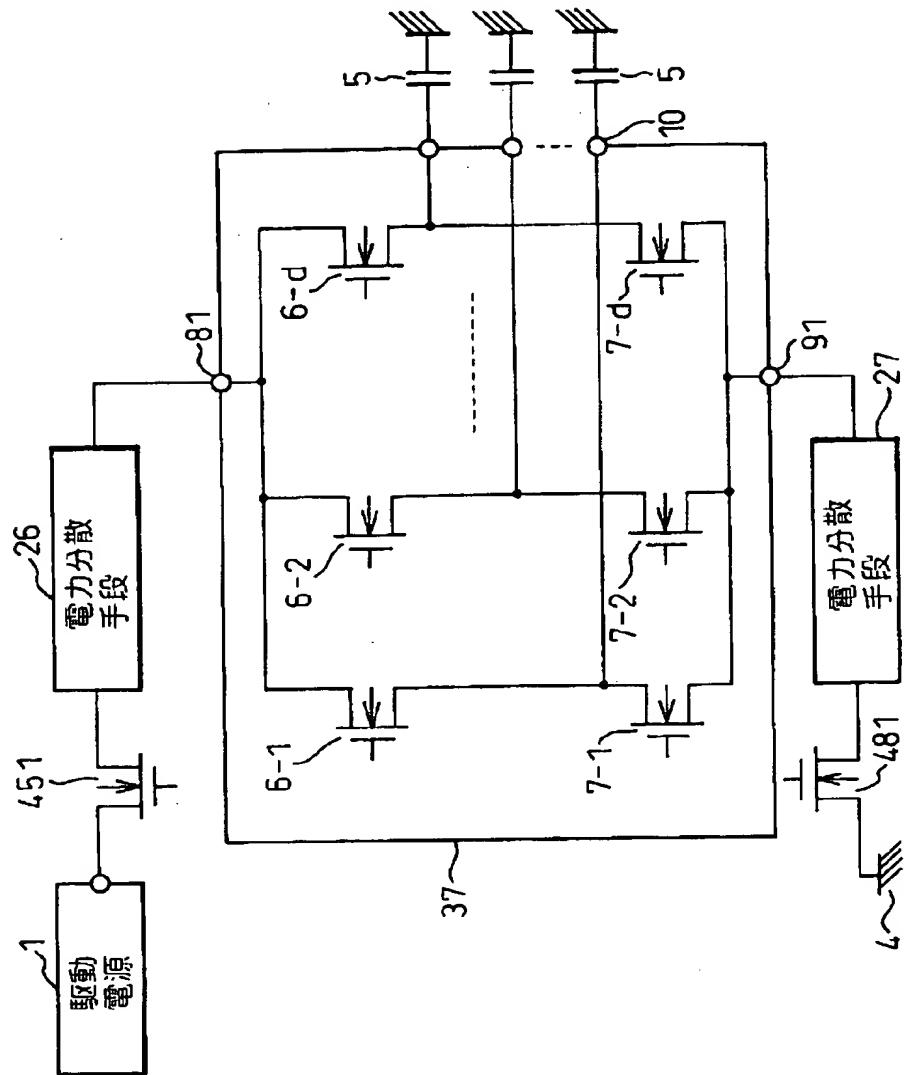
本発明に係る容量性負荷駆動回路の第13実施例としての  
駆動モジュールを構成する集積回路の他の例を示す  
ブロック回路図



【図19】

図19

本発明に係る容量性負荷駆動回路の第14実施例としての駆動モジュールを構成する集積回路のさらには他の例を示すブロック回路図



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 容量性負荷を駆動する回路においては、その負荷容量と駆動周波数の増大に伴ない、従来の低電力化技術を用いたとしても消費電力が増大してしまい、その駆動回路（ドライブ I C）自身からの発熱が大きな問題となっている。本発明の目的は上記の条件においても消費電力の増大を抑えられる容量性負荷駆動回路を提供することである。

【解決手段】 駆動電源 1 を駆動素子 6 を介して出力端子に接続した構成を含む容量性負荷駆動回路 3 であって、前記駆動電源 1 と前記駆動素子 6 との間に電力分散手段 2 を挿入するように構成する。

【選択図】 図3

出願人履歴情報

識別番号 [599132708]

1. 変更年月日 1999年 9月17日

[変更理由] 新規登録

住 所 神奈川県川崎市高津区坂戸3丁目2番1号  
氏 名 富士通日立プラズマディスプレイ株式会社